

ニッペ 水性ケンエース®

多機能タイプの環境配慮形水性つや消し塗料。
内装・外装の各部位に塗装可能です。

防火材料認定番号	品目名
NM-8585	塗料塗装/不燃材料
QM-9816	塗料塗装/準不燃材料
RM-9364	塗料塗装/難燃材料

ホルムアルデヒド
放 散 等 級 F☆☆☆☆

■ 特長

① 環境配慮形

水系、非危険物、1液形なので、臭気が少なく、ポットライフがない取り扱いやすい商品です。また低VOC塗料(TVOC1%以下)ですので、室内環境に配慮した水性塗料です。

② 優れた仕上がり

落ち着いたあるつや消し仕上げで隠ぺい性に優れ、外部性能と内部の仕上りの両面を兼ね備えた高級品です。

③ やに止め性/付着性/耐水性

1液水性反応硬化形なので、密着性にすぐれています。また、※やに止め性、付着性、耐水性などにすぐれています。※やに止めについては裏面の「やに止めレベルの目安」をご参照ください。

④ 防藻・防かび性

藻やかびの発生を抑える効果があり、美観維持に役立ちます。強力防かびタイプ、抗菌タイプもオプション付与が可能です。

■ 用途

戸建住宅・マンション・商業施設など、臭気配慮が必要な内・外壁面の新設・改修塗装。

■ 適用下地

新設適用下地：モルタル、コンクリート、ブロック、木部、かき落としモルタル、塩ビクロス面

③繊維壁、耐火被覆用ケイカル板、ロックウールなどの非常に弱い素材には使用できません

改修適用下地：上記各種素材面

※素材によってはシーラーが必要になります。施工上の注意事項と要点を参照してください。

■ 標準塗装仕様

● 改修塗装仕様(内・外部面)

・やにの付着が認められる場合は、裏面の「やに止めレベルの目安」をご参照ください。

工 程	塗 料 名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	浮き膜を除去し、その周辺もケレンしてください。 粉化物、よごれ、ごみ、かびなどを除去し、清掃してください。						
上塗	ニッペ 水性ケンエース	2	平滑面(0.12~0.14) リシン面・軒天(0.16~0.20)	2時間以上	水道水	2~8%	ウールローラー・はけ エアレスプレー

● 新設塗装仕様(内・外部面)

工 程	塗 料 名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	エフロレッセンス、レイタンスなどの粉化物、よごれ、油分などを除去してください。 吸い込みの著しい下地やセメント系素地などの場合は、シーラーが必要となります。その場合は上塗りの前に使用してください。						
上塗	ニッペ 水性ケンエース	2	0.12~0.14	2時間以上	水道水	2~8%	ウールローラー・はけ エアレスプレー

注1) 上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります。特に旧塗膜がリシン面などの粗面の場合、塗付が大幅に増えますので試験塗装などして確かめてください。)

注2) かび発生面に塗装する場合は、必ず次の処理を行って塗装してください。

- ①5%次亜塩素酸ソーダ水で殺菌処理してください。
- ②処理剤塗付後は必ず水洗いをし、十分に乾燥させてください。

注3) 塗料を厚く付けすぎると、割れが発生する場合があります。必ず使用量をおまもりください。

注4) 弾性塗膜の塗り替えには使用しないでください。

注5) カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。

特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業所までご相談いただきますようお願いいたします。

ニッペ 水性ケンエース

塗装基準

塗装方法	はけ・ウールローラー・エアレスプレー塗り
希釈率	2~8%
使用量	0.12~0.14kg/m ² /回
1缶あたりの塗装面積	57~67m ² /2回/16kg 14~16m ² /2回/4kg

- 塗付量は、0.10kg/m²/回です。
- 使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の使用質量
- 塗付量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の付着質量

塗り重ね乾燥時間

	5~10℃	23℃	30℃
塗り重ね乾燥	5時間以上	2時間以上	1時間以上

乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

容量・荷姿

塗料名	系統	容量	色相	つや
ニッペ	水性反応硬化形	16kg	各色	つや消し
水性ケンエース	エマルジョン塗料	4kg	(原色あり)	

やかに止めレベルの目安

水性塗料のため、あらゆる条件でやかに止められる訳ではありません。以下の色相を目安に注意して施工してください。

ニッペ水性ケンエースで止まるやかに左の色相が目安です。ただし、施工条件（温度、下地の状態）などにより止まらない場合がありますので予めご了承願います。左の色相見本より著しいやが付着している場合は、水性シミ止めシーラーⅡを塗装するか、しっかりと洗浄をしてやにを除去してから施工してください。

■施工上の要点と注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。）

- 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水成分が表面に溶出し、結露物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- 濡熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最新の営業所などにご相談ください。
- 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 防凍・防かび・抗菌効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水成分が表面に溶出し、結露物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合があります。乾燥すると元に戻ります。
- 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- スプレーの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業能率の低下および塗りむらの原因になります。
- 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。
- 反応硬化タイプの塗料の場合、使用後はのけはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- 動物はけは、はげが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- JIS K 5663 1種（主として屋外用）の試験に合格する性能を有しておりますが、耐久性が必要な外壁には、外壁専用塗料をご推奨いたします。
- 塗膜に割れが生じるとおそれがあるため、軟らかく旧塗膜の上への塗装は避けてください。
- 本品は必ず2回塗りをしてください。1回塗り/2回塗りでは仕上がりが異なります。
- 完全除去性は、乾燥回数によって異なります。使用回数に応じて若干の差がある場合があります。
- つや消し仕上げを塗り替える場合、種類によっては適性が異なる場合がありますので、試し塗りをしてから本施工してください。
- 繊維織、耐火被覆用、酸カルシウム板、ロックウールなどの非常に強い素材には塗装できません。
- 吸音板塗り替え用顔料分散材（スールマットなど）の塗り替えには使用できません。
- 氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないよう15℃以上で貯蔵、保管してください。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこなっておく必要があります。
- 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファン浸透シーラー、ファンフェルトシーラーをご使用ください。
- 濡熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最新の営業所などにご相談ください。
- やかに著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し、被塗装面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少しし、1回目の塗装を十分乾燥（目安23℃、6時間）させてから2回目の塗装をすることでやかに止め性が向上します。シミ、あぶみは止まない場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗装面を十分乾燥させてから塗装してください。
- 下地にタバコのやに汚れが著しい場合は、下塗り材として水性シミ止めシーラーⅡを塗装してください。
- タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗膜面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。
- 塩化ビニールクロスのはがれ、めくれ、浮きなどは接着剤で貼り付け、ローラーで圧着したり、類似クロスで面合わせをするなどあらかじめ補修してください。またクロスは接着剤が低下している場合、塗装することでクロスが浮き上がることがありますので、クロスのはがれ部分などはあらかじめ接着剤などで押さえておくことが安心です。
- 28）素地のアルカリ性はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケツト科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケツト科学社製H1500シリーズ、コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- 29）材割の弱いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エポキシ樹脂が発生するおそれがありますので、溶剤シーラーをご使用下さい。
- 30）新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファン浸透シーラーをお使いください。
- 31）塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 32）屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 33）塗装時および塗装後に密閉しまたは乾燥が進みますので、換気を十分に行ってください。
- 34）塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁してください。
- 35）飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- 36）シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプライマー/オフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起ることがあります。
- 37）笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法を十分に配慮し、換気を促してください。
- 38）薄めすぎは塗りむら不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 39）上塗り/下塗り/仕上げ/ローラー目/フール、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に見えの色相は、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等をご確認ください。
- 40）顔色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 41）濃彩色や汚れた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するよう箇所には使用する場合は、ファンシリコンプレッシュクワイヤーを上塗りに塗装してください。クワイヤーのローラー及び剛毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や染みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- 42）濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしておきご確認ください。ご使用ください。
- 43）大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず混ぜておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および塗り方法などの条件を同一にしてください。
- 44）はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌質が異なるため若干の色相差が生まれますので、はけ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
- 45）ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- 46）塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 47）汚れ、さびなどにより補修が必要場合があります。使用塗料のロットは必ず混ぜておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および塗り方法などの塗装条件を同一にしてください。
- 48）布クロス、紙クロスや汚染防止のクロス（シリコ加工され水をはじくクロス）には塗装できません。塩ビクロスで可塑剤移行が考えられる場合は水性シミ止めシーラーを塗装してください。
- 49）可塑剤が多含まれる塩ビクロス、塩ビロール鋼板、塩ビラミネート、グラスチック、ゴム/ビキ、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- 50）塗料内容物が均一になるようによくかき混ぜてください。特につや調整品は、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かき混ぜ機を用いて底面の沈降物を十分にかき混ぜてご使用ください。
- 51）開封後は一度は使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密閉してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 52）塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒ししないでください。
- 53）製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

■安全衛生上の注意事項

ニッペ水性ケンエース 白

【横倒禁止】

- 使用前に取扱説明書を手入すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行うこと。
- この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- 環境への放出を避けること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 本来の用途以外に使用しないこと。
- 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
- 口をすすぐこと。
- はく露又はばく露の懸念がある場合/医師の診察/手当を受けること。
- 吸入した場合/空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 容器からこぼれた時は、砂などを散布した後処理すること。
- 直射日光に保管すること。
- 塗料を日光や水濡れは厳禁。
- 塗料等の缶の積み重ねは3段までとすること。
- 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄すること。

※上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
□詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
□本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危険	危険有害性情報
	発がんのおそれ/臓器の障害のおそれ/長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害/水生生物に有害/長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ

日本ペイント株式会社

- 北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9320
- 東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180
- 関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
- 北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
- 中部支店 ☎052-461-1960

●このカタログは再生紙を使用しています。

- 本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名/会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2023 NIPPON PAINT Co., Ltd All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.
NP-B030

SS230410T
2023年4月現在